

第4次西宮市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)

令和4年度(2022年度)実績報告書



西宮市

令和6年(2024年)7月

目 次

1. 計画について	—————	P. 2
2. 目標設定対象排出量の実績	—————	P. 2
3. 目標設定対象排出量における活動別排出量	—————	P. 3
4. 目標設定対象排出量における燃料別内訳	—————	P. 4
5. <参考> 令和4年度総排出量	—————	P. 4
6. <参考> 環境配慮項目の取組状況（エコオフィス活動点検結果のまとめ）	—————	P. 5

令和5年(2023年)3月に策定された本計画は、地球温暖化対策推進法第21条に基づく計画であり、地球温暖化対策計画を踏まえた公的機関に求められる取組として、市役所自らの事務事業の実施に伴う温室効果ガス排出量の削減等を率先して行うことにより、2050年ゼロカーボンシティの実現に向けて、本市市域における地球温暖化対策の推進を図ることを目的としています。

計画期間を令和4年度(2022年度)から令和10年度(2028年度)までの7年間とし、本市の事務事業(指定管理者制度の対象施設における活動を含む)から排出される温室効果ガス^{※1}(目標設定対象排出量^{※2})を令和10年度(2028年度)までに平成25年度(2013年度)より65%以上削減することを目標としています。

- ※1 温室効果ガス…本計画では、二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)、一酸化二窒素(N₂O)、ハイドロフルオロカーボン(HFC)の4つが対象。
- ※2 総排出量と目標設定対象排出量…総排出量は、市役所のすべての事務・事業から発生する温室効果ガスの排出量。これに対し、目標設定対象排出量は総排出量から一般廃棄物焼却、下水処理及び麻酔(笑気ガス)の使用による排出量を除外したもの。

<補足>

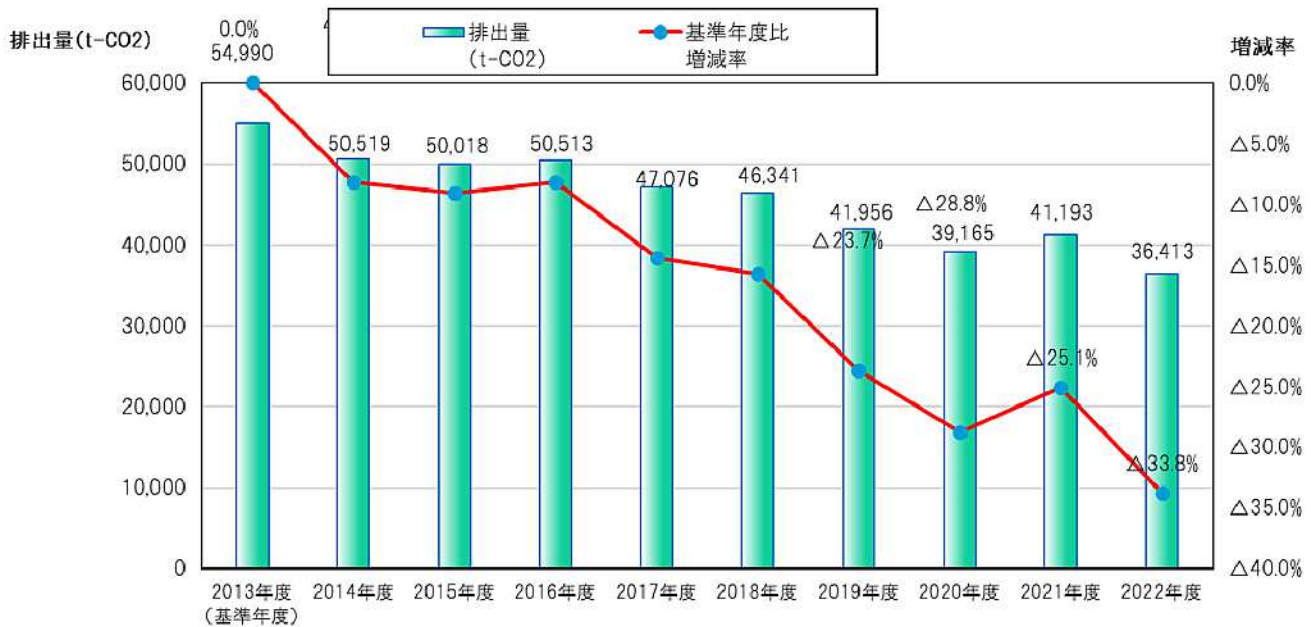
- ※ 前計画では、進捗状況管理にあたり、温室効果ガス排出量算出の際、電力排出係数(1kWhの電気を生産するにあたり発生する二酸化炭素量)の増減に左右されない評価を行うため、平成24年度(2012年度)の電力排出係数(平成25年度(2013年度)以降の新規参入事業者は使用できる最も古い電力排出係数)を固定して使用していました。しかしながら、本計画においては、「2050年ゼロカーボンシティ」を表明した自治体としてCO₂排出量をより正確に把握する必要があるとともに、排出係数のより低い電気事業者からの電気の調達を取組の一つとして推進するため、毎年度の当該事業者の電気の排出係数を用いて算定することとしています。
- ※ 今回の実績報告にあたっては、比較対象となる前年度の令和3年度(2021年度)の電力の排出係数を平成24年度(2012年度)の電力排出係数に固定せず、現況年度の電力の排出係数に変動させて表記しています。

令和4年度の目標設定対象排出量と対基準年度及び対前年度との比較(表1)、基準年度以降の目標設定対象排出量及び削減率の推移(図1)は以下のとおりです。

(表1) 令和4年度の目標設定対象排出量の対基準年度及び対前年度の増減量・率

(単位：t-CO₂)

基準年度 平成25年度	令和3年度 (2021年度)				令和4年度 (2022年度)			
	排出量	対基準年度		排出量	対基準年度		対前年度	
		増減量	増減率		増減量	増減率	増減量	増減率
54,990	41,193	△13,797	△25.1%	36,413	△18,577	△33.8%	△4,780	△11.6%



(図 1) 目標設定対象排出量及び削減率の推移

3 目標設定対象における活動別排出量内訳

令和4年度の目標設定対象排出量の活動別の内訳と基準年度及び対前年度との比較については、表2のとおりです。

前年度と比較して目標設定対象排出量は11.6%減少しています。

(表 2) 目標設定対象における活動別排出量

(単位:t-CO₂)

関連する活動	基準年度 平成25年度 (2013年度)	前年度 令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	増減量 (対基準年度)	増減率 (対基準年度)	増減量 (対前年度)	増減率 (対前年度)
電気	45,397	28,756	23,714	△ 21,683	△47.8%	△ 5,042	△17.5%
都市ガス	7,409	11,010	11,179	3,770	50.9%	170	1.5%
A重油	420	235	158	△ 261	△62.3%	△ 77	△32.7%
LPG	52	17	67	16	30.34%	50	293.5%
灯油	350	51	137	△ 213	△60.9%	86	170.8%
ガソリン	658	552	572	△ 87	△13.1%	19	3.5%
軽油	394	542	553	159	40.4%	11	2.1%
CNG	280	5	4	△ 276	△98.5%	△ 1	△14.7%
自動車の使用	30	26	29	△ 1	△3.6%	3	12.7%
目標設定対象排出量	54,990	41,193	36,413	△ 18,576	△33.8%	△ 4,780	△11.6%

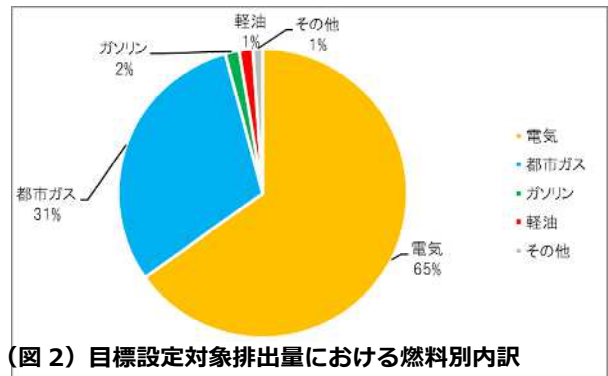
目標設定対象排出量における燃料別内訳

令和4年度の目標設定対象排出量の活動別の割合は、図2のとおりです。

電気及び都市ガスの使用による温室効果ガス排出量が全排出量の96%と大部分を占めています。

特に、電気の使用による排出量は65%を占めており、電気の使用量を減らすことが目標設定対象排出量の削減のための最も重要な要素となっています。

※その他…A重油、LPG、灯油、CNG、自動車の走行



(図2) 目標設定対象排出量における燃料別内訳

<参考> 令和4年度総排出量

総排出量は、目標設定対象排出量に、一般廃棄物焼却及び下水処理に伴う排出量、麻酔（笑気ガス）使用に伴う排出量を合わせたものです。これらの活動に伴う排出量は、市民や事業者の活動などと直接関係しており、市の事務・事業として目標を設定することが困難なため、目標設定対象排出量からは除外しているものです。

令和4年度の総排出量の内訳と基準年度及び対前年度との比較については、表3のとおりです。

(表3) 総排出量の内訳、対基準年度及び対前年度の増減量・率

(単位：t-CO₂)

	基準年度 平成25年 度 (2013年 度)	令和3年度 (2021年度)			令和4年度 (2022年度)				
		実績	対基準年度		実績	対基準年度		対前年度	
			増減量	増減率		増減量	増減率	増減量	増減率
総排出量	122,695	120,894	△1,801	△1.5%	102,455	△20,241	△16.5%	△18,439	△15.3%
目標設定排出量	54,990	41,193	△13,797	△25.1%	36,413	△18,576	△33.8%	△4,780	△11.6%
一般廃棄物の焼却に伴う排出	63,574	75,431	11,857	18.7%	62,013	△1,562	△2.5%	△13,418	△17.8%
下水処理に伴う排出	4,131	4,234	103	2.5%	4,011	△120	△2.9%	△223	△5.3%
麻酔（笑気ガス）使用に伴う排出	0	36	36	-	18	18	-	△18	△50.0%

エネルギー等使用量(監視測定状況報告書)調査結果(令和4年度実績)

令和4年度 エコオフィス活動報告 (全庁まとめ)										
環境配慮項目		環境目標	実績							環境目標 達成状況
			期間	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	対前年度比	
コピー用紙	使用量 (A4箱)	前年度を上回らない	上半期	5,824.83	6,146.68	5,992.05	5,933.61	5,887.30	-0.8%	○
			下半期	6,129.01	6,085.82	6,209.29	6,055.34	5,739.80	-5.2%	
			年間	11,953.84	12,232.50	12,201.34	11,988.95	11,627.10	-3.0%	
グリーン 購入	紙 類 (%)	前年度以上	年間	-	-	-	92.4%	98.8%	6.4%	○
	文具類 (%)	前年度以上	年間	-	-	-	79.9%	75.8%	-4.1%	×
	印刷(役務) (%)	前年度以上	年間	-	-	-	75.9%	50.4%	-25.5%	×
上 水 (m ³)	前年度を上回らない	上半期	135,823	131,887	119,424	131,619	137,309	4.3%	×	
		下半期	116,882	126,162	117,659	117,225	111,948	-4.5%		
		年間	252,705	258,049	237,083	248,844	249,257	0.2%		

各項目の取り組み状況

※下記表の割合(%)は、「○」取り組みができて、「△」取り組みが一部不十分である、「×」取り組みができていない、「-」対象外の回答のうち、「-」の数を除き集計したものです。

項目	取り組み例	○ (%)	△ (%)	× (%)
紙の購入・ 使用、 印刷物の発行	環境に配慮したコピー用紙や印刷用紙を選定する。	98.2%	1.8%	0.0%
	会議でのペーパーレス化や、配布資料の印刷を必要最小限とする。	92.2%	7.3%	0.6%
事務用品の 購入・使用	グリーン商品、環境に配慮した商品の使用に努める。	96.0%	4.0%	0.0%
ごみの排出	必要かつ適正な物品購入を行う。	100.0%	0.0%	0.0%
	空き缶、ビン、ペットボトルのリサイクルや、マイカップの利用等、ごみの削減に努める。	97.2%	2.2%	0.6%
上水の使用	水道使用時に水を流しっぱなしにしないなど、必要最小限の使用にとどめる。	100.0%	0.0%	0.0%

各所属の取組事例(一部抜粋)

上記の取り組みの他に、各所属において、下記のような独自の取り組みや工夫が見られました。

項目	取り組み内容
紙	<ul style="list-style-type: none"> 会議資料は事前に Garoon のスケジュールで共有し、パソコン持参の会議を積極的に行っている 電子申請の活用を図り、紙配布物の削減に努めている 両面コピーや縮小印刷により、可能な限り紙の使用の削減に努めている 個人情報に記載していない使用済みの用紙を裏紙として、メモ書きやコピー用紙等に使用している
事務用品	<ul style="list-style-type: none"> 物品購入は必要最小限行うようにしている ファイルの再利用に努めている
ごみ	<ul style="list-style-type: none"> 紙カップを使用せず、マイカップの使用を推奨している ゴミの分別を徹底している

エコオフィス活動点検結果のまとめ

多くの所属で着実にエコオフィス活動の取り組みが進められており、一定の効果が表れていますが、一部取り組みが不十分な所属も見受けられます。特に、グリーン購入の調査対象品目のうち、窓付き封筒について、達成状況が低い傾向にあります。各所属でさらに取り組みを徹底するとともに、他所属の独自の取り組みや工夫の事例を参考に、エコオフィス活動を推進してください。